

平成29年度 部局自己評価報告書 (31：教育情報基盤センター)

Ⅲ 部局別評価指標(取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：(23)～(24)合わせて7,000字以内

(1)全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値(23)

◎[全学第3期中期計画 No. 1： 『現代社会に必要なリテラシーの修得に多角的に取り組む授業科目群の開発・提供』]

・本センターは全学教育「情報基礎」の教育内容を策定する責任部局となっている（平成12年4月『全学教育改革検討委員会報告書』）。平成28年度は、高等学校学習指導要領の改正に対応すべく、平成27年度までに新しい教育内容（「情報基礎第4版」）を策定し、平成28年度から、本センター教員が執筆した共通教科書を用いながら新しい内容で「情報基礎」を実施するとともに、全学共通講義ノート（執筆、学務審議会情報基礎委員会教員会議における授業担当教員の研修などの活動を行った。

このことを本項に記述する理由は、「情報基礎第4版」で新たに「コンピューターショナル・シンキング (Computational Thinking)」の概念を教育の柱として導入したためである。この概念は、知識基盤社会への移行が完了した21世紀において万人に必須の問題解決スキルとして、北米の大学で積極的に教育されており、初等中等教育のSTEM教育にも波及している。日本では本学が初めて導入したものであり、里見ビジョンに記載された目標に見合う、本学に相応しい全学教育情報教育と考えている。

◎[全学第3期中期計画 No. 1： 『情報通信技術(ICT)の活用による学習方法の提供』]

◎[全学第3期中期計画 No. 2： 『PBL(Project-Based Learning)型授業等によるアクティブ・ラーニングの拡充、学生の学修時間の確保・増加、学生の自律的学習姿勢の強化』]

・本学における教育情報化及びeラーニングの共通基盤として、本センターはこれまで、ISTUシステムの機能開発と高度な利用法の推進を通じてこの中期計画項目の達成に取り組んでいる。新しいISTUシステムが平成28年10月から本格運用を開始し、機能や使い勝手の改善はもとより、スマートフォン等の最近のデバイスにも対応することで、アクティブ・ラーニング等、新しい教授法にも柔軟に対応できるよう整備した。

◎[全学第3期中期計画 No. 14： 『障害のある学生に対する支援措置の充実・強化』]

・川内北キャンパスの講義棟およびマルチメディア教育研究棟に導入され、平成28年10月から試験運用、平成29年4月から本運用を開始した授業収録配信システムは、修学上の配慮を要する学生の支援がその主要な役割と位置づけられており、その運用とサポート業務を本センターが担っている。

◎[全学第3期中期計画 No. 37： 『地域の特色や資源を活用した研究・人材育成・新産業創出等の取組を継続的に推進し、それらの活動を国内外に発信』]

・地域イノベーションプロデューサー塾（経済学研究科）、MEMS人材育成事業（工学研究科）等の地域貢献事業においてISTUが利用されている。

◎[全学第3期中期計画 No. 45： 『言語や文化の異なる多様な人々と協調しつつ自己の主張

を的確に相手に伝え問題解決に導く高度なコミュニケーション能力を涵養』]

◎[全学第3期中期計画 No. 59 : 『TOEIC スコア 700 点以上の事務職員等の 100 名以上増員など職員の研修』]

・外国語自学習用に本センターが提供している e ラーニング教材 (ALC NetAcademy2) は、全学生のみならず全教職員が利用可能であり、特に TOEIC 試験対策を含む英語スキル向上のための手段のひとつとして、各所で利用されている。平成 28 年度も安定的にサービスを提供するとともに、利用者講習会等を通じた普及活動を実施した。

◎[全学第3期中期計画 No. 75 : 『全構成員の研究倫理研修受講の義務付けなど全学的・組織的な取組を推進』]

・博士学位論文における不正防止の観点から導入された剽窃チェックツールの iThenticate は、平成 27 年度からは博士学位論文だけでなく、将来の博士論文の基礎となるような論文原稿などもチェック可能となっており、研究活動における不正防止にも活用可能である。iThenticate のユーザ管理とライセンス管理は本センターが担当している。

◎[全学第3期中期計画 No. 76 : 『全構成員のコンプライアンス教育受講の義務付け』]

◎[全学第3期中期計画 No. 77 : 『個人情報保護の徹底』]

・大学が実施する研究費不正利用防止コンプライアンス教育および個人情報保護教育に ISTU システムが活用されており、本センターの教職員がその技術的な支援を実施している。

◎[全学第3期中期計画 No. 79 : 『情報基盤の活用・充実』]

・平成 28 年度までは情報シナジー機構の中核組織のひとつとして、同機構の事業の一部を担ってきた。特に、全学共通の電子認証機能である SRP、および学生用電子メールサービスは、全学的な情報基盤のひとつと位置づけられており、本センターがその運用を担当している。

(2)[前記②]のほか東北大学グローバルビジョン(部局ビジョン)の重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値(④)

◎[部局ビジョン重点戦略・展開戦略1:新しい全学教育情報教育の策定と実施環境の整備]

・「新しい全学教育情報教育の策定」については、上記「全学第3期中期計画 No. 1」に関係して述べたとおり、概ね完了している。

・「実施環境の整備」については、平成 27 年 2 月に情報教育用 ICL システムを更新して完了している。

◎[部局ビジョン重点戦略・展開戦略2:教育用情報サービス・コンテンツの充実と合理化]

・本センターが推進してきた「デジタルキャンパスプロジェクト」は、教育用・学生用の情報基盤整備としては、平成 27 年度に川内北キャンパスに整備した無線 LAN (eduroam) によって概ね達成された。

・e ラーニングコンテンツについては、主に外国語学習用を平成 26 年度までに整備した。ただし、現時点で導入されている TOEIC 対策教材だけでなく、TOEFL 対策教材についても今後、検討を進める必要がある。

◎[部局ビジョン重点戦略・展開戦略3:全学的な教育情報化の展開]

・全学的な教育情報化の共通プラットフォームである ISTU システムは平成 28 年 3 月に更新され、平

成 28 年 10 月から本稼働を開始した。新しい ISTU システムは、正規授業だけでなく、本学職員を対象とした研修の拠点としても積極的に活用されている。